

注目ポイント！

農村安心院ならではの農と心を大切にした官民協働によるグリーンツーリズムを展開。



会員制農村民泊の年間入込客数が約600人(平成11年度)から約4,900人(平成17年度)へ



安心院盆地

コラム

農村安心院ならではの自然・生活・文化・人的資源を最大限に活かし、会員制農村民泊、資源活用・景観保全型のイベント、体験学習受け入れなどのグリーン・ツーリズムを展開。

安心院の文字どおり、住む人も、訪れる人も安らく「安心の里づくり」を進めている。



農村民泊さきがけのカリスマ  
宮田 静一氏

これまでの経緯

- 平成 8年(1996年) 安心院町グリーンツーリズム研究会を結成・活動活性化(民間)。
- 平成 9年(1997年) グリーンツーリズムモデル整備構想を策定(行政)。  
グリーンツーリズム特別委員会報告書に基づく提案が議会でなされる。  
全国に先駆けて「グリーンツーリズム取り組み宣言」を議決。  
安心院町グリーンツーリズム推進協議会を設立。
- 平成13年(2001年) 安心院町役場に(現在は宇佐市役所)商工歓交課グリーンツーリズム推進係を設置。

## 主な取り組み

### 会員制農村民泊の実施

安心院の特徴の一つとして、「農村民泊」が上げられる。農村の民家に泊まり、食事などのすべての時間を泊まった家庭の人と共に過ごすのを基本としている。都市住民には久しぶりに田舎の親戚に帰ってきた雰囲気味わってもらうため受け入れ側も親戚を迎える気持ちで接している。



農村民泊受け入れ家庭

### 全国藁こずみ大会の実施

かつて農村の冬の風物詩であった藁こずみの技を後世に伝え、美しさやアイデアを競う。資源活用による農村景観の見直しを通じて、農業のあり方や農村の良さを都市住民と一緒に考えるイベント。11月から田んぼに3カ月間展示され、1月末にはフィナーレ祭も開催される。



藁こずみ大会

### リバーサイドウォークの実施

川歩きを通じて農村の景観、水、自然、環境の大切さをみんなで考え行動する活動をしている。当初50名程度の参加が今では毎年約80名が参加。



リバーサイドウォーク

### ふるさと探訪の旅

単なる観光地ではなく、近代化の過程で消えつつある農村遺品や農業を訪ねる旅を企画し、町内外の交流を図っている。



ふるさと探訪

### 問い合わせ先

大分県宇佐市安心院支所商工歓交課グリーンツーリズム推進係

Tel : 0978 - 44 - 1111 Fax : 0978 - 44 - 2075